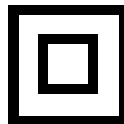


取扱説明書

用途

- パイプ、アングルの切断
- 各種木材の切断および窓抜き
- 軟鋼板、アルミ板、銅板などの切断
- ベークライト、塩化ビニールなどの各種合成樹脂の切断

二重絶縁

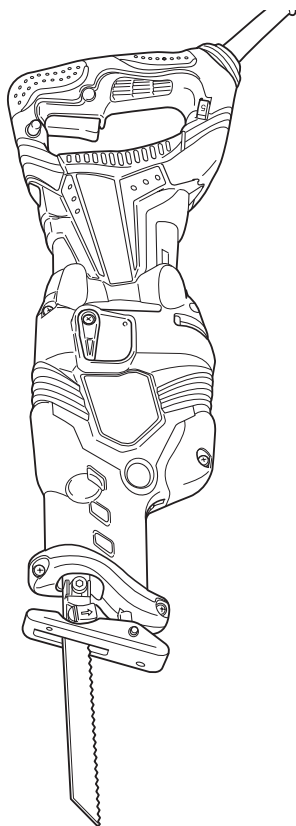


日立 電子セーバー CR 13VB

このたびは日立電子セーバーをお買い上げいただき、ありがとうございました。

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。

お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。



電動工具の安全上のご注意	1
二重絶縁について	4
本製品の使用上のご注意	4
各部の名称	5
仕様	6
標準付属品	6
別売部品	7

はじめに

ご使用前の準備・点検	9
ベース位置の調整	11
ストレート切断/スイング切断	12
のこ刃の取付け・取りはずし	13
切断する	15
窓抜き切断	17

使い方

保守・点検	19
ご修理のときは	裏表紙

その他

⚠警告、**⚠注意**、**注** の意味について

ご使用上の注意事項は「**⚠警告**」、「**⚠注意**」、「**注**」に区分しており、それぞれ次の意味を表します。

⚠警告 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

⚠注意 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

なお、「**⚠注意**」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

注 : 製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。

電動工具の安全上のご注意

- 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

⚠警告

- ① 作業場は、いつもきれいに保ってください。**
 - ちらかった場所や作業台は、事故の原因になります。
- ② 作業場の周囲状況も考慮してください。**
 - 電動工具は、雨中で使用したり、湿った、または、ぬれた場所で使用しないでください。
 - 作業場は十分に明るくしてください。
 - 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。
- ③ 感電に注意してください。**
 - 電動工具を使用中、身体を、アース(接地)されているものに接触させないようにしてください。
(例えば、パイプ、暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫などの外枠)
- ④ 子供を近づけないでください。**
 - 作業員以外、電動工具やコードに触れさせないでください。
 - 作業員以外、作業場へ近づけないでください。
- ⑤ 使用しない場合は、きちんと保管してください。**
 - 乾燥した場所で、子供の手の届かない高い所または鍵のかかる所に保管してください。
- ⑥ 無理して使用しないでください。**
 - 安全に能率よく作業するために、電動工具の能力に合った速さで作業してください。

⚠ 警告

⑦ 作業に合った電動工具を使用してください。

- 小形の電動工具やアタッチメントは、大形の電動工具で行う作業には使用しないでください。
- 指定された用途以外に使用しないでください。

⑧ きちんとした服装で作業してください。

- だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、回転部に巻き込まれる恐れがあるので、着用しないでください。
- 屋外で作業する場合には、ゴム手袋と滑り止めの付いた履物の使用をお勧めします。
- 長い髪は、帽子やヘアカバーなどでおおってください。

⑨ 保護メガネを使用してください。

- 作業時は、保護メガネを使用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。

⑩ 防音保護具を着用してください。

- 騒音の大きい作業では、耳栓、イヤマフなどの防音保護具を着用してください。

⑪ コードを乱暴に扱わないでください。

- コードを持って電動工具を運んだり、コードを引っ張ってコンセントから抜かないでください。
- コードを熱、油、角のとがった所に近づけないでください。

⑫ 加工する物をしっかりと固定してください。

- 加工する物を固定するために、クランプや万力などを利用してください。手で保持するより安全で、両手で電動工具を使用できます。

⑬ 無理な姿勢で作業をしないでください。

- 常に足元をしっかりとさせ、バランスを保つようにしてください。

⑭ 電動工具は、注意深く手入れをしてください。

- 安全に能率よく作業していただくために、刃物類は常に手入れをし、よく切れる状態を保ってください。
- 注油や付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。
- コードは定期的に点検し、損傷している場合は、修理をお買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに依頼してください。
- 延長コードを使用する場合は、定期的に点検し、損傷している場合には交換してください。
- 握り部は、常に乾かしてきれいな状態を保ち、油やグリースが付かないようにしてください。

⑮ 次の場合は、電動工具のスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。


- 使用しない、または修理する場合。
- 刃物、トイシ、ビットなどの付属品を交換する場合。
- その他、危険が予想される場合。

警告

- ⑩ 調節キーやスパナなどは、必ず取りはずしてください。
- 電源を入れる前に、調節に用いたキーやスパナなどの工具類が取りはずしてあることを確認してください。
- ⑪ 不意な始動は避けてください。
- 電源につないだ状態で、スイッチに指を掛けて運ばないでください。
 - 電源プラグをコンセントにさし込む前に、スイッチが切れていることを確かめてください。
- ⑫ 屋外使用に合った延長コードを使用してください。
- 屋外で延長コードを使用する場合、キャブタイヤコードまたはキャブタイヤケーブルを使用してください。
- ⑬ 油断しないで十分注意して作業を行ってください。
- 電動工具を使用する場合は、取扱方法、作業のしかた、周りの状況など十分注意して慎重に作業してください。
 - 常識を働かせてください。
 - 疲れているときは、使用しないでください。
- ⑭ 損傷した部品がないか点検してください。
- 使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また、所定機能を発揮するか確認してください。
 - 可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他、運転に影響を及ぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
 - 損傷した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。
 - スイッチが故障した場合は、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。
 - スイッチで始動および停止操作のできない電動工具は、使用しないでください。
- ⑮ 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。
- この取扱説明書および当社カタログに記載されている指定の付属品やアタッチメント以外のものは、事故やけがの原因になる恐れがあるので、使用しないでください。
- ⑯ 電動工具の修理は、専門店で依頼してください。
- この電動工具は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
 - 修理は、必ずお買い求めの販売店または日立工機電動工具センターにお申しつけください。ご自分で修理しますと、事故やけがの原因になります。

二重絶縁について

電気の流れる所と外観部品との間が、異なる二つの絶縁物で絶縁されていることを言います。たとえ一つの絶縁物がこわれても、もう一つの絶縁物で保護されていて感電しにくくなっています。

お求めの製品は二重絶縁構造であり、銘板に  マークで表示してあります。異なった部品と交換したり、間違って組立てたりすると二重絶縁構造でなくなります。

電気系統の分解、組立や部品の交換はお買い求めの販売店、または日立工機電動工具センターにご用命ください。

本製品の使用上のご注意

先に電動工具として共通の注意事項を述べましたが、電子サーボソーとして、さらに次に述べる注意事項を守ってください。

警告

- ① 使用電源は、銘板に表示してある電圧で使用してください。
 - 表示を超える電圧で使用すると、速度が異常に速くなり、けがの原因になります。
- ② 直流電源、エンジン発電機、昇圧器などのトランス類で使用しないでください。
 - 製品の損傷を生じるだけでなく、事故の原因になります。
- ③ 作業する箇所に、電線管・水道管やガス管などの埋設物がないことを、作業前に十分確かめてください。
 - 埋設物があると、のこ刃(ブレード類)が触れ、感電や漏電・ガス漏れの恐れがあり、事故の原因になります。
- ④ 使用中は、機体を確実に保持してください。
 - 確実に保持していないと、けがの原因になります。
- ⑤ 使用中、機体の調子が悪かったり、異常音がしたときは、直ちにスイッチを切って使用を中止し、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに点検・修理を依頼してください。
 - そのまま使用していると、けがの原因になります。
- ⑥ 誤って落としたり、ぶつけたときは、のこ刃(ブレード類)や機体などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。
 - 破損や亀裂、変形があると、けがの原因になります。

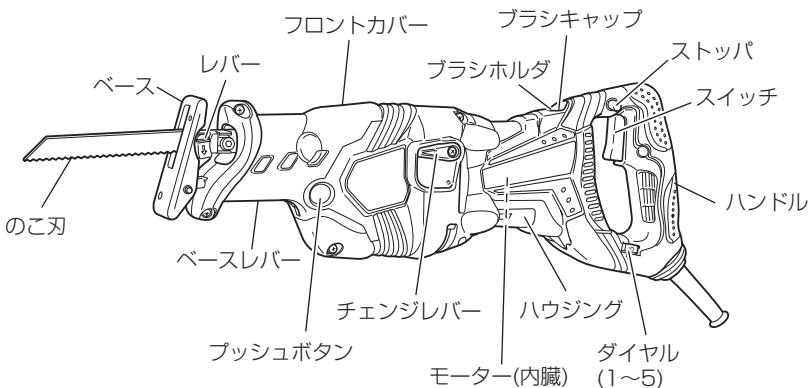
○ 騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。ご近所に迷惑をかけないよう、規制値以下でご使用になることが必要です。状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

⚠ 注意

- ① のこ刃(ブレード類)や付属品は、取扱説明書に従って確実に取付けてください。
 - 確実でないと、はずれたりし、けがの原因になります。
- ② 使用中は、のこ刃(ブレード類)や切粉の排出部に手や顔などを近づけないでください。
 - けがの原因になります。
- ③ 使用直後ののこ刃(ブレード類)は高温になっているので、触れないでください。
 - やけどの原因になります。
- ④ のこ刃(ブレード類)でコードを切断しないように注意してください。
 - 感電の恐れがあります。
- ⑤ 高所作業のときは、下に人がいないことをよく確かめてください。また、コードを引っかけたりしないでください。
 - 材料や機体などを落としたときなど、事故の原因になります。

各部の名称

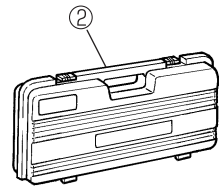
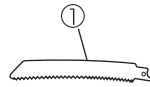


仕 様

形 名	CR 13VB
使 用 電 源	単相交流 50 / 60 Hz 共用 電圧 100 V
切 断 能 力	軟鋼パイプ 外径 130 mm 塩ビパイプ 外径 130 mm 木 材 厚さ 120 mm 軟 鋼 材 厚さ 19 mm
モ ー タ ー	単相直巻整流子モーター
全 負 荷 電 流	11 A
消 費 電 力	1050 W
無負荷ストローク数	0 ~ 2800 min ⁻¹ {0 ~ 2800 回/分}
ス ト ロ ー ク	32 mm
質 量	4.0 kg (コードを除く)
コ ー ド	2心キャブタイヤコード 2.5 m

標準付属品

- ① のこ刃 No.141
(ステンレス、鋼管用) …………… 1 個
- ② ケース …………… 1 個



別売部品 (別売部品は生産を打ち切る場合がありますので、ご了承ください)

詳しくは、お買い求めの販売店または日立工機の全国営業拠点(裏表紙参照)にお問い合わせ
 合わせください。

各種のこ刃

作業の能率や仕上げを良くするには、加工物の材質や厚さに適したのこ刃を使うことが
 大切です。下表を参照し、加工物に適したのこ刃をご使用ください。

注 表中の最大加工物寸法は、ベースの取付け位置をセーバソー本体に最も近い位置に
 取付けた場合の寸法です。ベースをセーバソー本体から遠ざけて取付けた場合は、
 最大加工物寸法が小さくなりますのでご注意ください。

表1. ハイスブレード (ストレートタイプ)

のこ刃 番号	最大加工物寸法 (mm)		のこ刃寸法 (mm)			山数 (山 / 25.4 mm)	包装 数量	
			全長	幅	厚さ			
No. 1	鋼 管	外径 105	195	18	0.9	14	5 枚入	
No. 2		外径 30	120					9
No. 3								
No. 4	木 材	厚さ 70	160			3		
No. 5	プラスチック管	外径 30	120			9		
	木 材	厚さ 30						
No. 8	プラスチック管	外径 115	205					
	木 材	厚さ 115						
No. 9	鋼 管	外径 130	300			14		
No. 95	ステンレス管	外径 105	195	18	3 枚入			
No. 96		外径 30	120					

表2. バイメタルブレード (BI-METAL) (ストレートタイプ) :
丈夫で折れにくいのご刃です。

のご刃 番号	最大加工物寸法 (mm)		のご刃寸法 (mm)			山数 (山/25.4 mm)	包装 数量
			全長	幅	厚さ		
No. 101	鋼 管 ステンレス管	外径 60	150	18	0.9	10	5 枚入
No. 102		外径 130	228				
No. 103		外径 60	150			14	
No. 104		外径 130	228				
No. 107		外径 60	150			24	
No. 108		外径 130	228				
No. 109		外径 60	150			18	
No. 110		外径 130	228				
No. 121	木 材 A L C	外径 130 厚さ 120	305	1.3	6	5 枚入	
No. 131	鋼 管 ステンレス管 A L C	外径 130					0.9
		厚さ 130					
No. 132	鋼 管 ステンレス管 木 材	外径 110	203	1.3	6 ~ 11		
		厚さ 110					

表3. 湾曲タイプブレード :
湾曲形状 (特許) + バイメタルにより、切断スピードと寿命を大幅に
向上させた最新のご刃です。

のご刃 番号	最大加工物寸法 (mm)		のご刃寸法 (mm)			山数 (山/25.4 mm)	包装 数量		
			全長	幅	厚さ				
No. 141	鋼 管 ステンレス管	外径 60	150	18	0.9	14	5 枚入		
No. 142		外径 115	200						
No. 143		外径 130	250			18			
No. 145		外径 60	150						
No. 146		外径 115	200			14			
No. 147		外径 130	250						
No. 152		外径 115	200		1.3	14			
No. 153			250						
No. 154		外径 130	300			1.3		8	
No. 155									
No. 156									

ご使用前の準備・点検

●漏電しゃ断器の設置

本製品は二重絶縁構造ですので、法律により漏電しゃ断器の設置は免除されていますが、万一の感電防止のため、漏電しゃ断器が設置されている電源に接続することをおすすめします。

●延長コードを使う場合

電気が流れるのに十分な太さのできるだけ短いコードをご使用ください。右表は使用できるコードの太さ（導体公称断面積）と、最大の長さです。これ以上長いコードを使用すると、電流が十分流れず製品の能率が落ち、故障の原因になります。



警告

延長コードは損傷のないものを用意してください。

コードの太さ (mm ²)	最大の長さ (m)
1.25	15
2	25
3.5	45

●使用電源の確認

必ず銘板に表示してある電源でご使用ください。表示を超える電圧で使用するとモーターの回転数が異常に速くなり、機体が破損する恐れがあります。また、直流電源、エンジン発電機、昇圧器などのトランス類で使用しないでください。製品の損傷を生じるだけでなく、事故の原因になります。

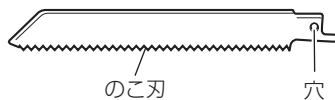
●コンセントの確認

電源プラグをさし込んだとき、コンセントがガタガタだったり、電源プラグがすぐ抜けるようでしたら修理が必要です。お近くの電気工事店などにご相談ください。そのままお使いになりますと、過熱して事故の原因になります。

●のこ刃の確認

⚠ 警告

穴部が摩耗したのこ刃を使用しないでください。
はずれたりし、けがの原因になります。



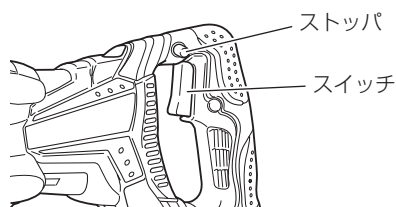
●スイッチの確認

スイッチが入っているのを知らずに電源プラグをコンセントにさし込むと、不意に機体が起動し、思わぬ事故の原因になります。

⚠ 警告

- 電源プラグをコンセントにさし込む前に、スイッチが切れていることを確かめてください。
- 電源につないだ状態で、スイッチに指を掛けて運ばないでください。
不意な始動により、思わぬけがの原因になります。

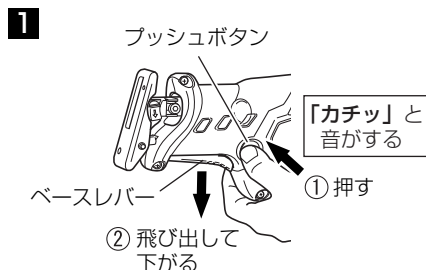
- スイッチは、引くと入り、離すと切れますので、指を離したときスイッチが戻ることを必ず確認してください。
- スイッチをいっぱい引いてストップ（右図）を押すと、指を離してもスイッチは入ったままで、連続運転になります。再びスイッチを引いて、ストップがはずれてから指を離すとスイッチが切れます。



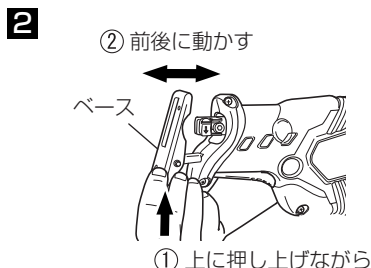
ベース位置の調整

ツールレス調整機構を搭載していますので、スパナやレンチなどの工具を使用しないで、ベースの取付け位置が3段階に調節できます。切断材料の大きさに合わせ、ベースの前後位置を調節してください。

- 1** プッシュボタンを押すと、「カチッ」と音がして、ベースレバーが飛び出します。
この状態で、ベースが調節できます。



- 2** ベース先端を上押ししながら、約 15 mm 間隔を目安にベースを前後に動かします。
(ベースの位置は 3 段階に調整できます。)



- 注** ベースを外側一杯に引き出すと、取りはずすことができます。誤ってベースを落下させないように注意してください。

- 3** ベースが引っかかる位置を探して、ベースレバーを指先で強く押し込みます。
「カチッ」と音がしてベースが固定されます。

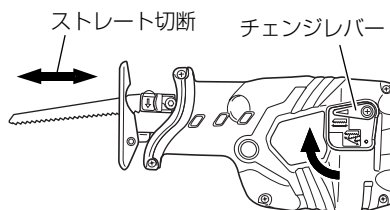


ストレート切断/スイング切断

チェンジレバーの切替により、のこ刃の動きを直線的に動かすストレート切断と、振り子のように動かすスイング切断の2方式の仕方が選べます。

■ストレート切断

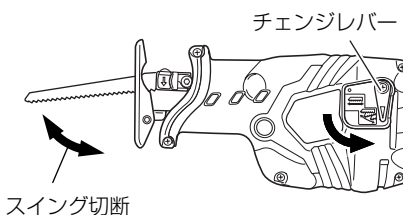
一般には金属のような硬質材を切断する場合は、チェンジレバーを横向きにセットして、ストレート切断に設定します。



■スイング切断

一般には木材のような軟質材を切断する場合は、チェンジレバーを縦向きにセットして、スイング切断に設定します。のこ刃が切断材料に勢いよく食い込むため、能率良く切断できます。

スイング切断は、のこ刃を上下どちらの向きに取付けても能率の良い切断ができます。



- 注**
- 軟質材でも、曲線切りやきれいに切断したい場合には、ストレート切断を選択してください。
 - チェンジレバー部にごみやほこりが溜まると、チェンジレバーの動きが悪くなる場合がありますので、チェンジレバー部をときどき掃除してください。
 - スイング切断時にはストレートタイプのブレードをご使用ください。湾曲タイプのブレードを使用すると、のこ刃を破損したり、機体を損傷する恐れがあります。

のこ刃の取付け・取りはずし

ツールレス着脱機構を搭載していますので、スパナやレンチなどの工具を使用しないで、のこ刃の取付け・取りはずしができます。

●のこ刃の取付け

1 スイッチの入り切りを繰り返して、レバーがフロントカバーから最大に飛び出した位置で停止させます。

2 スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜きます。

3 レバーを右図の矢印の方向(レバーに刻印された矢印と同じ方向)に押し下げます。

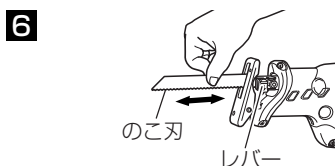
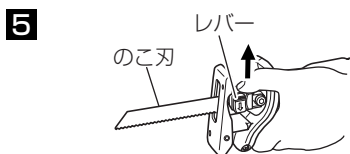
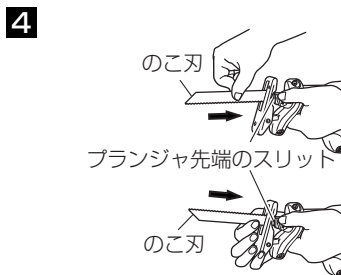
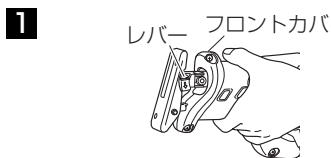
4 レバーを押し下げたまま、のこ刃をプランジャ先端のスリットいっぱいまでさし込みます。
のこ刃の向きは、作業に応じて上下どちらにも取付けできます。
(右図の下は逆方向取付け)

5 レバーから指を離すと、スプリングの力で自動的に戻り、のこ刃が固定されます。

6 のこ刃の背面を指で2～3回引っ張り、確実に取付けられたことを確認してください。

⚠警告

- のこ刃の取付け・取りはずしの際は、万一の事故を防止するため、必ずスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- のこ刃を引っ張るときは、必ずのこ刃の背面を引っ張ってください。刃のついている部分を引っ張ると、けがの原因になります。



●のこ刃の取りはずし

前ページ「のこ刃の取付け」手順 1-2 のあと、レバーを矢印の方向（レバーに刻印された矢印と同じ方向）に押し下げてから、のこ刃を下に向けて自然落下させます。

自然落下しない場合には、のこ刃を指で引っ張って取りはずしてください。

のこ刃が折れた場合

のこ刃が折れてブランチャのスリットの内部に残ってしまった場合でも、レバーを矢印の方向に押し下げてから、のこ刃を下に向ければ、折れたのこ刃は自然に落下します。

自然落下しない場合には、ベースを引き抜き（P 11「ベース位置の調整」参照）次の方法で取りはずしてください。

● 折れたのこ刃の一部がスリットから飛び出している場合：
飛び出した部分を指で引っ張って取りはずします。

● 折れたのこ刃がスリットの内部にかくれてしまった場合：
レバーを押し下げて、別ののこ刃の先端部分を使って、折れたのこ刃を引っ掛けて取りはずします。（右図参照）

注 切粉や粉じんによりレバーの動きが重くなり、指先ではのこ刃を取りはずせなくなる場合があります。

このような場合は、レバーに付いているゴムキャップを右図の矢印方向に引っ張り、レバーからゴムキャップを取りはずしてください。

そのあとに、エアなどですりばき内部を清掃し注油をしてください。ゴムキャップはレバーに強く押し付けると取付きます。

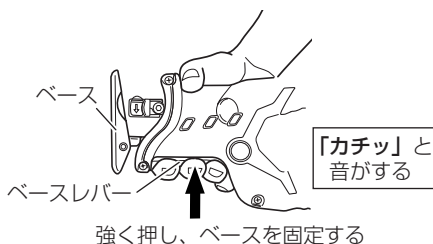
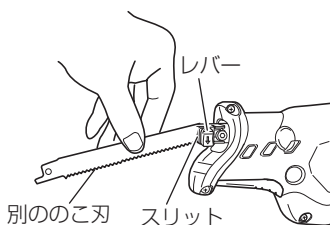
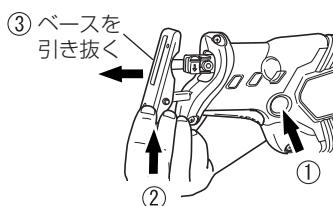
このとき、ブレードホルダとゴムキャップにすき間がないことを確かめた後、のこ刃取付け部の円滑な動作をご確認ください。

（P 19「のこ刃取付け部の清掃・注油」参照）

注 ベースを戻した後、ベースレバーを押し、ベースを固定してください。

⚠ 注意

使用直後ののこ刃は高温になっているので触れないでください。
やけどの原因になります。

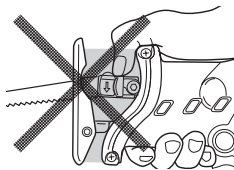


切断する

- パイプ、アングル ●軟鋼板、アルミ板、銅板など
- ベークライト、塩化ビニールなどの各種合成樹脂 ●各種木材

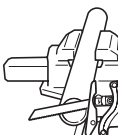
⚠ 警告

- 万一の事故を防止するため、②、③では必ずスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- フロントカバー（下図参照）をはずさないでください。必ずフロントカバーの上から機体を保持してご使用ください。
- 作業中に右図の範囲に指を入れないでください。思わぬけがの原因になります。



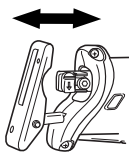
1 切断材料を固定する

クランプや万力などに、切断材料がしっかり固定されているかをご確認ください。



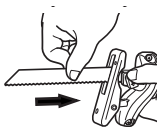
2 ベース位置を調整する

切断材料の大きさに合わせ、ベースの前後位置を調整します。（P11「ベース位置の調整」参照）



3 のこ刃を取付ける

切断材料の材質・厚さ・大きさに適したのこ刃（種類・長さ）をご使用ください。（P11「のこ刃の取付け・取りはずし」参照）



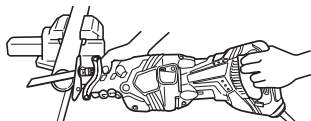
4 電源プラグをコンセントにさし込む

5 チェンジレバーを設定する

チェンジレバーで、ストレート切断かスイング切断を選択します。（P12「ストレート切断/スイング切断」参照）

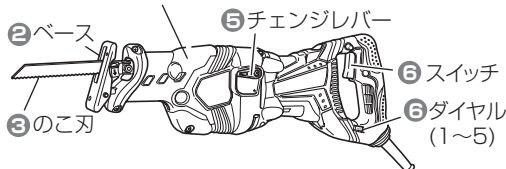
6 スイッチを入れる

- ダイヤルでのこ刃スピードを設定して、切断箇所にてのこ刃位置を合わせてベースを切断材料に押し当て、スイッチを引きます。（右ページ参照）
- 金属切断時には、切削油（タービン油など）をご使用ください。



- 注**
- 切粉などがのこ刃取付け部周辺の凹部にたまるときには、その都度、清掃しながら作業してください。
 - 金属切断時は切削油を使用してください。切削油を使用しないと、のこ刃の寿命が極端に短くなります。

フロントカバー

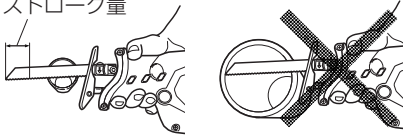


⚠ 警告

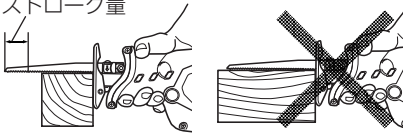
のこ刃の長さは、下図に示すようにストローク量(32 mm)を差し引いたのこ刃のベースからの飛び出し長さが、切断材料より十分大きくなるように選んでください。

のこ刃の切断能力以上の太いパイプや大きい木材などを切断すると、のこ刃先端がパイプ内壁または木材に当たって、のこ刃を折損する恐れがあります。

ストローク量



ストローク量



⚠ 注意

- 能率良く切断するために、のこ刃スピードの切り換えを作業条件、切断材料に合わせて調整してください。
- 作業中はベースを切断材料にしっかり押し当てて切断してください。しっかり押し当てないと振動により、のこ刃を損傷することがあります。
- 切断時は、無理な力を加えないでください。のこ刃を折損する恐れがあります。
- 小さな円弧に切断する場合は、送り速さを遅くしてください。無理に速く送ると、のこ刃を折損する恐れがあります。

● のこ刃スピードの調整

電子制御回路を内蔵していますので、スイッチの引込み量とダイヤルの両方で、のこ刃スピードを作業条件、切断材料に合わせて無段階に調整できます。

- スイッチを大きく引くと、のこ刃スピードが上がります。切断を開始するときは、ねらった位置に正確に切り込むためスピードを下げ(低速)、十分な切り込みが得られてからスピードを上げて(高速)、切断作業してください。
- スイッチ最高速は、ダイヤル目盛りで設定されます。ダイヤル目盛りは「5」が最速で、「1」が最低速です。一般的に木材などの軟質材には高速、金属などの硬質材には低速が適しています。下表を目安に、作業条件、切断材料に合ったのこ刃スピードに設定してご使用ください。

切断材料の例	推奨ダイヤル目盛り
ステンレス/プラスチック・ファイバー板	1～3
鉄パイプ・鋳鉄管・L形アングル/アルミ・黄銅・銅	2～4
ALC・石こうボード	4～5
木材・くぎが打込まれた木材	5

注 低速(目盛り1～2程度)で木材10 mm、または鉄板2 mmを超える厚さの材料を切断したり、低速で長い時間連続して切断すると、モーターに無理がかかり、故障の原因になります。特に、切断中のにこ刃が停止するような無理な使い方は避け、常に滑らかに切断できるように、のこ刃スピードを調節してください。

窓抜き切断

⚠ 警告

- 金属材料の窓抜き切断はしないでください。
のこ刃を折損する恐れがあります。
- のこ刃の先端を材料に押付けた状態でスイッチを引かないでください。
のこ刃先端が材料に勢いよく当たって、のこ刃を折損する恐れがあります。
- 必ず機体をしっかり保持して、ゆっくりと作業してください。
無理な力を加えると、のこ刃を折損する恐れがあります。

木製の合板パネルや薄板木材の窓抜き切断ができます。

1 切断材料を固定する

クランプや万力などに、切断材料がしっかり固定されているかを確認してください。

2 ベース位置を調整する

ベースの前後位置を調整します。
(P11「ベース位置の調整」参照)

3 のこ刃を取付ける

- できるだけ短くて、厚いのこ刃を使用してください。バイメタルブレードNo. 132をおすすめします。
(P7「別売部品」参照)
- のこ刃を上下逆向きに取り付けると容易に切断できます。
(次ページ「窓抜き切断のコツ」参照)
(P13「のこ刃の取付け・取りはずし」参照)

4 電源プラグをコンセントにさし込む

5 チェンジレバーを設定する

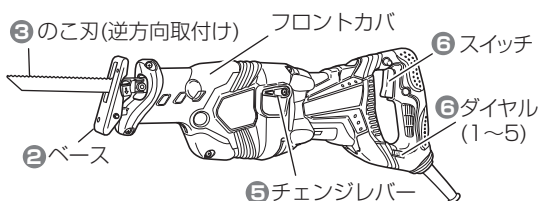
チェンジレバーで、ストレート切断を選択します。
(P12「ストレート切断/スイング切断」参照)

6 スイッチを入れる

ダイヤルで、のこ刃速度を設定します。
(P16「のこ刃速度の調整」参照)

7 切り込む

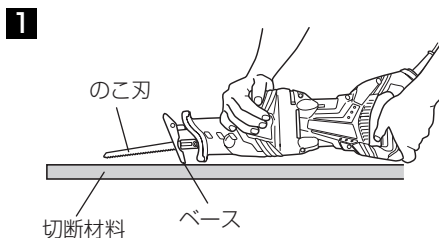
- ハンドルをゆっくり持ち上げて、少しずつのこ刃を切断材料に切込みます。
(次ページの図 2 参照)
- のこ刃が完全に切断材料を突き抜けるまで、しっかり機体を保持してください。
(次ページの図 3 参照)



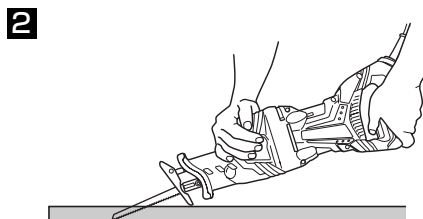
●窓抜き切断のコツ

- のこ刃を逆方向に取付けると、機体をより寝せた状態で切込みを開始できるため（下 **1** 図参照）スムーズに窓抜きの開始穴をあけることができます。
- 窓抜きの開始穴をあける際、スイング切断で行なうと、のこ刃がバタつき、効率よく開始穴をあけることができません。
- 開始穴があいた後、効率よく切断するにはスイング切断、きれいに切断するにはストレート切断を選択します。

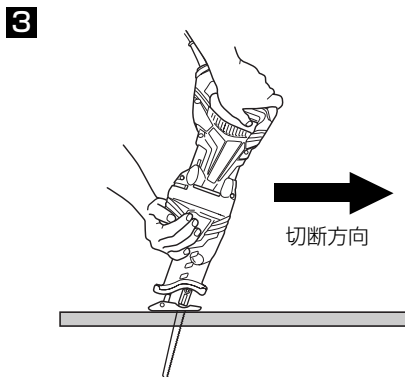
1 切断材料にベースを押し当て、のこ刃の先端を材料から離れた状態で、スイッチを引きます。



2 スイッチの引きぐあいでは、のこ刃のスピードがゆっくりな状態で少しずつ穴をあけます。



3 スイッチをいっぱい引き切断方向に少しずつ進めます。
のこ刃を上下逆方向に取付けた場合は、機体を逆さにして窓抜き切断します。



保守・点検

⚠ 警告

点検・お手入れの際は、必ずスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

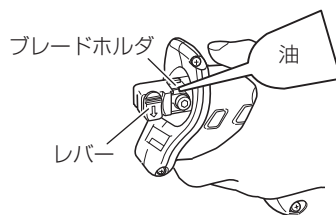
● のこ刃の点検

切れ味が悪くなったまま使用すると、モーターに無理がかかり作業の能率も落ちます。早めに新品と交換してください。

● のこ刃取付け部の清掃・注油

のこ刃取付け部周辺の凹部に切粉・土・砂・水分などを付着したままにしておくと、ブレードホルダ周辺部がさびついて機体内部の故障の原因になります。ベースを取りはずして(P 11「ベース位置の調整」参照)、清掃・注油してください。

- 注** ● のこ刃取付け部をいつも円滑に動かすため、ご使用後は、切粉・土・砂・水分などをエアで吹き飛ばすか、ブラシなどで清掃してください。
- 右図のように、ブレードホルダ周辺部に切削油などを定期的に注油してください。



● 本体はきれいに

石けん水に浸した布をよく絞ってからふいてください。ガソリン、シンナー、ベンジン、灯油類は変形の原因になるので使用しないでください。

● 取付ねじの点検

時々点検して、ゆるんでいたら、締め直してください。そのまま使用すると危険です。

● モーター部の取扱について

モーター部の巻線は機体の重要な部分です。巻線にキズ、洗油および水をつけないよう十分に注意してください。

- 注** 50時間くらい使用しましたら、モーターを無負荷運転させて、湿気のない空気をハウジングの風穴から吹き込んでください。ごみやほこりの排出に効果があります。モーター内部にごみやほこりがたまると、故障の原因になります。

●製品や付属品の保管

使用しない製品や付属品の保管場所として、下記のような場所は避け、安全で乾燥した場所に保管してください。

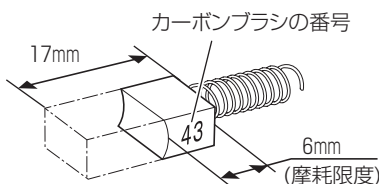
- 注**
- お子様の手が届いたり、簡単に持ち出せる場所には保管しない。
 - 軒先など雨がかったり、湿気のある場所には保管しない。
 - 温度が急変する場所、直射日光の当たる場所には保管しない。
 - 引火や爆発の恐れがある揮発性物質の置いてある場所には保管しない。

●カーボンブラシの点検

モーター部には、消耗品であるカーボンブラシを使用しております。カーボンブラシの摩耗が大きくなりますと、モーターの故障の原因となりますので、長さが摩耗限度(6mmぐらい)になりましたら新品と交換してください。

また、カーボンブラシはごみなどを取除いてきれいにし、ブラシホルダ内で自由にすべるようにしてください。

- 注** 新品のカーボンブラシと交換の際は、必ず図示の番号(43)の日立カーボンブラシを使用してください。



●カーボンブラシの交換方法

1 古いカーボンブラシを取り出す

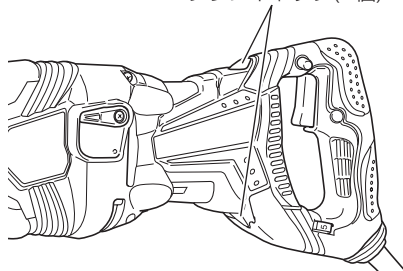
マイナスドライバーなどでブラシキャップをはずして、古いカーボンブラシを取り出します。



3 ブラシキャップを取付ける

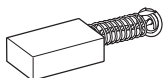
ブラシキャップでカーボンブラシを押しさえ込みながら、マイナスドライバーなどで時計方向に回して締付けます。

ブラシキャップ(2個)



2 新しいカーボンブラシを取付ける

ブラシホルダの角穴に合わせてカーボンブラシを指で押し込みます。



× ㊦

ご修理のときは

この製品は、厳密な精度で製造されています。もし正常に作動しなくなった場合は、決してご自身で修理をなさらないでお買い求めの販売店または日立工機電動工具センターにご依頼ください。

ご不明のときは、下記の全国営業拠点にご相談ください。また、部品ご購入の場合や取扱いでお困りの点などについても、ご遠慮なくお問い合わせください。

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号(NO.)などを下欄にメモしておかれますと、修理を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日	年 月 日	製造番号(NO.)
販売店 (TEL)		

全国営業拠点

■ 日立工機電動工具センターへのご用命は、下記の営業拠点にお問い合わせください。

- 北海道支店 TEL (011) 896-1740 (代) 〒004-0053 札幌市厚別区厚別中央3条1丁目2番20号
東北支店 TEL (022) 288-8676 (代) 〒984-0002 仙台市若林区卸町東3丁目3番36号
関東支店 TEL (03) 5783-0608 (代) 〒108-6020 港区港南2丁目15番1号(品川インターシティA棟)
中部支店 TEL (052) 533-0231 (代) 〒451-0051 名古屋市西区則武新町1丁目32番16号
北陸支店 TEL (076) 263-4311 (代) 〒920-0058 金沢市示野中町1丁目163番
関西支店 TEL (0798) 37-2665 (代) 〒663-8243 西宮市津門大筋町10番20号
中国支店 TEL (082) 504-8282 (代) 〒730-0826 広島市中区南吉島2丁目3番7号
四国支店 TEL (087) 863-6761 (代) 〒760-0078 高松市今里町1丁目28番14号
九州支店 TEL (092) 621-5772 (代) 〒813-0062 福岡市東区松島4丁目8番5号

「電動工具お客様相談センター」 ☎ 0120-208822 (フリーダイヤル・無料)
※携帯電話からはご利用になれません。 (土・日・祝日を除く 午前9:00～午後5:00)
電動工具ホームページ—<http://www.hitachi-koki.co.jp/powertools/>



〒108-6020 東京都港区港南2丁目15番1号(品川インターシティA棟)
国内営業本部 TEL (03) 5783-0626 (代)